



2 イベント分類の設定

- [機能情報の確認 \(1 ページ\)](#)
- [2 イベント分類について \(1 ページ\)](#)
- [2 イベント分類の設定 \(2 ページ\)](#)
- [例 : 2 イベント分類の設定 \(2 ページ\)](#)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、使用するプラットフォームおよびソフトウェア リリースの **Bug Search Tool** およびリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、**Cisco Feature Navigator** を使用します。**Cisco Feature Navigator** には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。**Cisco.com** のアカウントは必要ありません。

2 イベント分類について

クラス4デバイスが検出されると、IOS は、CDP または LLDP のネゴシエーションを行うことなく 30W を割り当てます。これは、リンクがアップする前であっても、クラス4の電源デバイスは 30W を得ることを意味します。

また、ハードウェアレベルで、PSE は2 イベント分類を行い、これにより、クラス4 PD はハードウェアから 30W を供給する PSE の能力を検出し、それ自体を登録することができます。また、CDP/LLDP パケット交換を待つことなく最大 PoE+ レベルまで移動できます。

2 イベントがポートで有効になったら、ポートの遮断または開放を手動で行うか、または PD を再度接続して IEEE 検出を再度開始する必要があります。2 イベント分類がポートで有効になっている場合、クラス4デバイスの電力バジェット割り当ては 30W です。その他の場合は 15.4W です。

2 イベント分類の設定

2 イベント分類についてスイッチを設定するには、次の手順を実行します。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | enable 例： デバイス> enable | 特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。 |
| ステップ 2 | configure terminal 例： デバイス# configure terminal | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。 |
| ステップ 3 | interface interface-id 例： デバイス(config)# interface gigabitethernet2/0/1 | 設定する物理ポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 |
| ステップ 4 | power inline port 2-event 例： デバイス(config-if)# power inline port 2-event | スイッチで 2 イベント分類を設定します。 |
| ステップ 5 | end 例： デバイス(config-if)# end | 特権 EXEC モードに戻ります。 |

関連トピック

[例：2 イベント分類の設定](#) (2 ページ)

例：2 イベント分類の設定

次に、2 イベント分類を設定する例を示します。

```
デバイス> enable
デバイス# configure terminal
デバイス(config)# interface gigabitethernet2/0/1
デバイス(config-if)# power inline port 2-event
デバイス(config-if)# end
```

関連トピック

[2 イベント分類の設定](#) (2 ページ)

